

学校教育目標	豊かに学び 認め合い 咲かせよう笑顔と満ちの花					
	○基礎・基本を身に付け、自ら問題を発見し、よりよく解決する力を育てます(知) ○自他を大切にし、豊かな体験を通して他者とともによりよく生きる力を育てます(徳) ○自ら健康を保持・増進し、心身ともにたくましく生きる力を育てます(体) ○自分の役割や働くことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働する力を育てます(公) ○自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する力を育てます(開)					
学校概要	創立 53 周年	学校長 今野 敏晴	副校長 角皆 裕文	2 学期制	一般学級: 14	個別支援学級: 2
	児童生徒数: 437 人 主な関係校: 大正中学校 大正小学校 東俣野小学校					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大正中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力 問題発見・解決能力 自分の考えを伝える力	大正中学校 大正小学校 小雀小学校 東俣野小学校	課題解決に向けて、学習に向かう姿勢を身に付け、粘り強く学ぶ子ども ----- ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した合同授業研究・協議会(年2回) ○児童・生徒一人ひとりの課題や教育的ニーズをきめ細かく捉え、ニーズに応じた児童・支援を行うための合同研修会、情報交換会の開催。 ○地域の人的・物的資源を活用し、社会教育との連携を図り、子ども像を社会と共有・連携しながら実現させる。

中期取組目標	○子ども達の夢や希望を育みながら、まちと共に歩む学校づくりを推進します ・子どもたちが様々な学習や体験を通して多くの人やものと出会い、豊かに学べる学校づくりを目指します。 ・人との関わりやつながりを大切に相手意識、目的意識を育て、子どもたちがお互いの良さを認め合い協力する喜びを実感し、共に成長していこうとする豊かな心を育てていきます。 ・学校・家庭・地域の中で自己有用感や多くの達成感を感じ、夢や希望をもち、なりたい自分に向かって努力し続ける意欲を高めていきます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 学力向上	①伝える目的、内容、方法を学び取れる授業デザインを職員全体で共有し、教科横断的に連続して指導して、児童の理解と自信につなげる。②漢字学習や家庭学習の取り組み方を学ぶことを通して、自主的な学ぶ力を獲得する。③適切な目標設定をし、その進捗状況や達成度をふり返り、児童に成長の実感をもたせる。
徳 人権教育 特別支援教育	①研修を通して教職員の特別支援教育の理解を深める。②すべての児童が安心して学習できるように、学校としてのユニバーサルデザインの取組方を検討し実施する。③個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、校内委員会で個に合った支援を検討し実施する。
体 安全教育 健康教育	①様々なケースの避難訓練を通して自己回避能力の向上をめざす。実際に発災した時に自分で判断して避難ができるようなスキルを身に付ける。②委員会活動や学校保健委員会の取組を通して、自己健康管理能力の向上を図る。③体育行事(運動会・体力テスト・水泳学習)や運動委員会の取組を通して体力向上を図る。
公開 公共心 社会参画	①新型コロナ等、社会的情勢に対応した各種行事計画の立案・修正を行う。②教職員による振り返りや保護者へのアンケートを通して、子どもの公共心や社会参画意識を高める観点から行事の改善を図る。③行事での子どもの学びや成長を保護者がより把握できるよう、行事に関する保護者の理解の深化を図る。
いじめへの対応	①いじめの積極的認知を行い、児童の心に寄り添った対応をする。①月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の迅速な対応と丁寧な経過観察を行うことで再発防止に努める。③いじめ防止研修を行い、教職員のいじめに対する意識を高め、いじめを見逃さない体制づくりをする。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①学年・学級経営力を高め、児童理解や集団づくりに関する指導力を身に付けられるように定期会議を実施する②日常業務の効率化を図るために、教材共有や専科・交換授業、会議内容の精査・精選などの業務改善をする。③働きやすい職場づくりを目指し、PDCAサイクルのもと働き方の改革を実施する。
児童指導 心の教育	①小雀スタンダードや学校生活目標を児童にとって主体的に関われる内容に見直すことで、学習しやすく安全な生活を送るための基準として児童自身が活用できるものにする。②YPアセスメントや教育相談を定期的に行い、児童理解と具体的な支援・指導を実践する。③職員会議や打合せで児童情報をこまめに共有する。
GIGAスクール	子どもたち一人ひとりに、個別に最適化された教育ICT環境を提供し創造性を高めていくことのできるGIGAスクール構想を実践していく。①一人ひとりに与えられた端末を適切に扱う指導を行う。②ICT機器や端末を教育活動の中で効果的に活用していくための実践例を教職員が共有して授業に取り入れる。③ロイノートなどの活用についても、保護者にも明確に伝えるように働きかけていく。今年度はオンラインを活用して、家庭学習とのつながりをもてるような基盤を固め、学びの積み重ねを子どもたちの中に体現していく。
教職員研究・研修 カリキュラム・マネジメント	①校内授業研究会では、子どもが「できた・わかった」と感じることで授業づくりを進めるとともに、本校で目指す〈自分づくりに関する力〉の資質能力が育成できるように、「自分の考えを伝えることのできる子」の姿を目指した授業づくりに取り組む。②教育課程の編成では、各教科等で育成する資質・能力と〈自分づくりに関する力〉の関連を意識し、教科等横断的な視点で年間計画の作成にあたる。③職員研修では、資質能力を育む授業デザインについて理解を深めたり、目指す子どもの具体像について共有したりすることで、職員一同が同じ方向性で指導に当たれるようにする。
地域学校 協働活動	①学校協働本部と連携して人材バンクを作成し、社会科や総合的な学習の時間等の学習構想に役立てるようになる。②日本漢字検定を実施し、児童や地域も参加できるような環境をつくる。③学校運営協議会では、意見交換を行い、運営向上に向けて連携を図る。